

誤解しないで、「白い杖」 全盲ではない人でも使用

視覚障害者の方が使用される「白杖」。駅や街中でお見掛けすることも多いですが、この白杖について周囲が正しく知らないためにトラブルが起きることもあるそうです…。



★白杖でスマホ…「詐欺じゃないの？」

「白杖を持って、スマートフォンを見ていたら『詐欺じゃないの?』と言われてるのが聞こえた」

—これはある視覚障害者の声。白杖を持っている人は皆、視力がゼロの状態、つまり全盲の人だと思われがちですが、実際には全盲ではない人も持っています。視野が欠けていたり、視力が弱くて眼鏡をかけても矯正できなかつたりする人たちも白杖を持つ場合があります、さらに、聴覚や平衡機能の障害がある人も白杖を持つ

ことができます。つまり、白杖を持った人が、スマートフォンを見ていることもありえます。

白杖を持つのに、明確な基準というのはありませんが、医師に勧められたり、通勤ラッシュの時に駅の階段から落ちてしまうなど、危険な目に遭ったりして白杖を持つようになる人が多いようです。

★視覚障害者にとって便利なスマホ

視力が弱い人にとって、実はスマートフォンは便利だそうです。文字を拡大することもでき、文字を黒から白に反転させることもでき、その他にも機種によっては文章の読み上げ機能などもあり、こういう機能を活用している人も多いそうです。



★白杖使用者は、全員全盲？

実は、**視覚障害者の中で全盲者は2割程度**で、弱視者（目で見える範囲が狭い、色の認識が困難など）が圧倒的に人数が多く、**弱視者も白杖を使用します。**

さらに加えると、白杖は**視覚障害者以外も使用します。**つまり、白杖を使用している「少し見える」「ぼんやり見える」人もいるということです。

白杖の役割と使い方

- ①周囲の情報を入手する
- ②身の安全を確保する
- ③視覚障害者であることを周囲に知らせる

どんなときにお手伝いすればいいの？

- ・立ち止まって、周りを見渡している。
- ・同じ道を行ったり来たりしている。
- ・（電車や駅で）席が空いているのに立ったまましている。

白杖使用者への声かけのポイント

➤ なるべく正面から声かけする

- ・正面、もしくは飛沫感染を避けるために斜め前から声かけを。

➤ 具体的な情報で伝える

- ・“あっち”や“もうちょっと”ではなく、「右手側に5メートル進んでください」「あと2歩前へ」など正確な数字ではなくてもいいので具体的な情報を。

➤ 身体に触れるときは事前に声かけする

- ・急にからだを触られるとびっくりするので、最初に「右手を失礼します」や「案内しますので右手を前に出してください」という声かけを。

➤ お手伝いの方法が分からなければ本人に聞いてみる

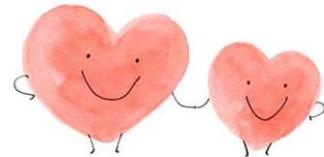
- ・自分で決めつけしないで、その人がどうしてほしいのか聞いてみる。「何かお手伝いできることはありますか?」「もしよろしければ案内しましょうか?」など。

「白杖SOS」

- 白杖を両手で持ち、上に掲げるポーズを「白杖SOS」と言います。



白杖SOSではなくても、困っていそうな方がいたらお声がけをしてみましょう。



お互いに気持ちを伝えあうために、“声をかける”ことは、とても大切です。

弊社は損害保険会社8社、生命保険会社8社、少額短期保険会社1社を取扱い、お客様の企業経営から個人のライフプランまで総合的なリスクマネジメントをご提案いたします。現在弊社以外でご契約の保険の証券診断も承りますので、お気軽にご相談ください！

弊社では、募集品質の改善・向上への取り組みの一環として、お客様から忌憚ないご意見やご感想を伺っております。是非ともご協力ください！

“お客様アンケートのサイト”
<https://forms.gle/EXCkVdfkxmLLni7u7>



◆弊社ホームページで「TOKYO CENTRAL NEWS」のバックナンバーを掲載しておりますので、是非ともご参照ください。

◆ スライドテクニック

- ☞ 地面にスライドさせながら歩行する。
 - ・地面の凹凸に敏感に対応できる。
 - ・一度に広範囲の路面状況を把握できる。
 - ・静かな場所でも利用できる。

◆ タッチテクニック

- ☞ 離れた2点（左右）を叩きながら歩行する。
 - ・反響音を聞くことで、物があるかないかを区別できる。
 - ・叩く音で周囲に視覚障害者がいることを知らせる。

◆ 鉛筆持ち

- ☞ 路面から浮かせて自分の目の前にかざしながら歩行する。
 - ・視覚障害者であることを周囲に知らせる。
 - ・ガイド（誘導者）を同伴しての歩行時になどに使用する。

